# は じ め に

徳次郎石研究会（令和元（2019）年５月15日発足）の４年目の、令和四（2022）年の研究と活動の成果を報告するものです。

目を世界に向けますと、パウンデミック･ウクライナ情勢と混沌とする中、手前味噌ではありますが、会員諸氏の社会的な使命としての課題の挑戦には、敬意を表する限りの一年でありました。そして、地場の自然石と民とのかかわりは、平和の証とする感慨にふけります。

本年度の徳次郎石研究会の活動について、特徴的には次に要約できます。

**１　栃木県から産出する岩石・石材についての整理が、当会の調査各ノートも踏まえ、ち密に整理されてきました。かついて様々な形で報告されたものが、大きな形で整理される意義は、様々な面での活用性が出て参りました。**

**２　特に、長野県伊那市高遠石工研究センターとのかかわりから、野高遠石工とのかかわりを野州石造文化圏に及ぶ新たな展開が開けて参りました。とくに、１２月１８日「高遠石工と下野の世界」の講演会で、宇都宮市文化会館の開催で参加者４０名頂き、今後の契機となります。**

**３　本誌にはあまり触れられませんでしたが､｢泉州石工｣の大阪府阪南市教育委員会生涯学習推進室や福島県南ネットワーク等から、情報の提供やご指導を賜り感謝申し上げます。今後の全国的な石文化の発展と盛り上がりを感じる所であります。**

**４　国家機関や市町村との協力**

特に､産総研や日光市や地元により､合同調査会として「板橋石」の調査をおこないました。これが、二宮尊徳の報徳日記の解読に繋がり、板橋の石工と徳次郎石工の関係に迄及ぶことが出来ました。このような事例は、塩谷町等にもございます。

**５　５周年事業（来年度）と今後について**

・野州石造文化　紀行シリーズ」の開始

当会の活動について、できるだけ簡潔に社会還元をしていただきたい、とのご要望に基づき、特に採石場跡地の遺構についてだいぶ整理がなされてまいりました。それと周辺石文化と組み合わせて、一般公募での見学会《野州石造文化圏紀行シリーズ》として企画いたしました。初めての試みで、試行錯誤のあではありましたが､『古賀志石について』の見学会を１月18日に約30名ほどの参加で、意を強くし県内の採石各地に展開したいと考えます。

・写真展の開催・写真集の発行・出前講座など、お声がかかればさらに出向きたい所です

**６　徳次郎石研究会の課題**

当会は多くの面で進展を見せている所ですが、いささかなやみとする所がございます。研究活動の多くは、基礎研究に属するものが多く、社会的には理解されなく、その成果を認められにくいのが現状です。これは日本社会にもいえるここと で、例えていうならば、ＰＣのＯＳ（基本ソフト）の開発に心血を注いでいるのであります。立派なＯＳが出来ればできるほど、まちづくり等のアプリが数多く開発されます。その基本的な部分の一番大切なところを研究記録し、広く公開しているというイメージであります。いわば手弁当で行っている辛さも、なかなか世間では理解されない部分であります。我々の努力不足もあると思いますが、社会への啓もうも行いながら研究を進める必要を実感いたします。

改めまして、令和４年10月31日の中間発表会にもとづき、令和四年度成果集の定期発刊にいたり、事業の完成を見ましたことをご報告申し上げます。又、本会の成立・運営・執筆にご尽力をいだいた皆様、宇都宮市市民活動助成金事業等関係機関の各支援ご指導に厚く御礼申し上げます。

地元の方々及び各地区市民センター・文化会館におきましては、情報の提供・展示会の開催等格別のご理解を賜り、心より感謝申し上げます。おおくの方々の、ご声援とご期待に、お応えできればと考えております。

令和５年（2023年）３月

徳次郎石研究会　　（文責）　代表幹事　中川　博夫
代表幹事　中村　洋一・池田　貞夫